

渋谷区教育委員会 殿

渋谷区立代々木中学校長
駒 崎 彰 一
(web 公開版により公印省略)

令和 8 年度教育課程について (届)

このことについて、渋谷区立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおり編成をいたしましたのでお届けします。

なお、各法令及び学習指導要領等に基づき、生徒・学校・地域の実態や社会の情勢等に応じ、地域等のリソース(教育資源)等を最大限活用しながら、適正で安全かつ柔軟に実施にあたり、教育目標の達成に向けて、しなやかにカリキュラムをマネジメントしてまいります。

記

I 教育目標

(1) 学校の教育目標

確かな未来へ Launching Authentic Futures

「Society5.0」の到来に伴い創出される新たなサービスやビジネスによって、我々の生活は劇的に便利で快適なものになってきています。一方で、人類がこれまで経験したことのない大きな変革期を迎えるともいわれる中で「AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等」の高度化した先端技術を使いこなし、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材が求められています。このようなグローバル人材(次世代人材)の育成を目指し、激動の時代をたくましく歩んでいくための「生きる力」(スキル、資質・能力)育むため、次のグラデュエーションポリシー(Graduation Policy)を設定します。

○ Communication (対話)

多様な他者との主体的な「コミュニケーション」(対話)により、自分の良さ(自分らしさ)や可能性を見出すとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重することができる。

○ Collaboration (協調)

多様な他者との「コラボレーション」(協調)により最適解・納得解を導き出し様々な社会的変化を乗り越えることができる。

○ Innovation (革新)

新しい価値(コト・モノ)を創出することで豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

カリキュラム・ポリシー (Curriculum Policy) として、渋谷区立学校の目指すべき重点項目について、以下の方針で教育課程を編成します。

ア 子ども主体の「未来の学校」づくりの推進について

Don't think. Just do! YOYOGI やっちゃえ! 代々木

「未来の学校」で展開する「グローバルな世界水準の学び」の構築に向けた「学びのイノベーション」が求められています。これまでやってきた教育活動を踏まえ、「未来の学び」を試行錯誤して構築していく必要があるといわれている中で「新たな課題」が数多く出現することが予想されます。これらの課題を乗り越えるためには、「実行力」が重要です。「良いこと」はスグにとことんやる。そして、やり切る「突破力」も必要です。この「実行力・突破力」を引き出すために Don't think. Just do! YOYOGI “やっちゃえ 代々木” をキャッチフレーズとして、新しい教育活動による「未来の学校」づくりを展開していきます。

イ 一人ひとりの“ちがい”が活きる新たな学び・探究の推進について

「対話を重視する」

多様な他者との対話により「ちがいをちからに変える」

「ちがいをちからに変える学校」に向け、代々木中学校のすべての「ちがい」を「ちから」に変えるため「対話を重視する」教育活動を展開します。また授業では、教科指導の目的を達成するために、子供一人一人の特性や学習進度・学習到達度等に応じた「指導の個別化」および、子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じた「学習の個性化」を重視していきます。

ウ 誰でも安心・安全に挑戦できる教育環境の整備について

「信じ、待ち、許す」ことを基本方針として教育活動を展開していきます。教職員はもちろん、生徒・保護者・地域が相互を100%「信じる」こと、丁寧に対話して成果をじっくり「待つ」こと、失敗を「許し」成長につなげることを徹底することで安心・安全に挑戦できる教育環境を構築していきます。

エ テクノロジー活用によるDXの加速化と教員の働き方改革の推進について

授業・学校生活・校務等の学校に関わる全ての活動に躊躇せずテクノロジー（先端技術）を導入し、利活用することでDXの実現を目指します。単に、これまで紙（アナログ）で実施していたものをデジタルに変換するだけではなく、根本からのデジタル化（デジタルネイティブ化）を目指します。この実践により、生徒・教職員・保護者・地域等の協働を誘発し、すべてのステークホルダーのデジタルシチズンシップの醸成と今後の教育の方向性を考える契機として取組を広げていきます。教員の働き方改革に関しては、部活動の地域展開（シブヤ部活動改革プロジェクト）を推進していきます。

オ 地域と子どもの未来を共創する学校の推進について

地域のリソース（教育資源）を最大限に引き出し、教育活動を展開していくことで「地域とともに成長する学校」への転換を図ります。この実現に向けコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の活性化（熟議）により、学校と地域社会が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって生徒・保護者・地域住民を育む体制を構築していきます。さらに、学校施設は地域社会の「核」となると捉え、徹底的に「学校を開いて」教育活動を展開していきます。

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、家庭や地域への情報発信に努めるとともに、家庭・地域・社会の力を学校の教育活動と協調させ、学校がCatalyst（触媒：変化促進の場）となり、学びのオープンイノベーションを誘発します。

カ 特色ある教育活動についての方針

渋谷区スポーツセンター敷地内の仮設校舎（西原キャンパス）への移転を契機に「スポーツを通じた教育活動」を展開します。単に競技スポーツを推進するだけではなく、だれもがスポーツを「知る・見る・する・支える」いった側面でスポーツに親しむ教育活動を展開します。特に、スポーツをベースとしたテクノロジーの活用・アントレプレナーシップ・デザイン思考・グローバルコミュニケーション等の育成を展開します。

(3) 学校教育目標の達成についての成果検証について

以下の項目について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）にて定量的・定性的な取組指標（プロセス指標）・成果指標（アウトカム指標）を示し、熟議を通して成果を検証し、令和9年度の教育課程編成に活用します。

ア 学校評価アンケート

経年変化を捉えることのできる保護者アンケートについて定量的に検証するとともに、個別の意見（少数意見）にも着目して定性的にも成果検証を行います。

イ 「7つの力」アンケート（区効果検証アンケート）

「肯定的意見」の数値で判断するだけではなく、その結果が統計的に示す意味についても検証にあたりるとともに、生徒の「非認知能力」の効果測定について、本アンケート結果を含め検証していきます。

ウ 全国学力・学習状況調査

全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析することで、教育目標の成果と課題を検証して、その改善を図るとともに、生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

質問調査においては、生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する実態把握・状況分析にあたり、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を通して、地域・保護者とともに改善を図ります。

教科に関する調査においては「① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等」及び「② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等」に分けて状況把握・課題分析を進めます。特に、②に示した内容について、深く分析することで教育目標の成果検証にあたります。

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科

(ア)「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

未来社会をたくましく生き抜くスキル（資質・能力）を育成するため、各教科の授業デザインの転換を図ります。特に「協調型問題解決能力（Collaborative Problem Solving）」の育成を目指します。その手段として「知識構成型ジグソー法」をベースとして、学びの変革を目指します。これまでの一斉指導によるバブル型知識（覚えるだけの知識）の習得から可搬型（持ち運びができる）、活用可能型（課題解決に活用できる）、発展持続型（自発的に学びを広げる）の知識へと転換することにより確かな学力を育成していきます。

(イ)「個別最適な学び」の展開

指導方法や指導体制の工夫改善により「個に応じた指導」の充実を図ります。「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を展開する中で、個々の学習に関する悩みの理解や興味・関心・意欲等を把握し「指導の個別化」と「学習の個性化」を意識した「個別最適な学び」を展開します。また、ICTの活用により学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上の情報等（シブヤ教育ダッシュボード）を利活用して、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、学びに向かう力を育成していきます。

(ウ) 学びと先端技術（テクノロジー）の融合

タブレット端末をはじめとする先端技術（テクノロジー）と学びの融合を目指します。実社会で活用の広がる先端技術（テクノロジー）を学びとつなぐことで、先端技術（テクノロジー）を課題解決のツールとして使いこなすスキルを育成するとともに、デジタルシチズンシップの育成に取り組めます。学習者の課題解決のツールとして、これまでにない先端技術（テクノロジー）の活用にも挑戦していきます。

(エ)「教科横断的な学び」の構築

カリキュラム・マネジメントにより「教科横断的な視点」から各教科の学習活動を再構築することで「学び」と「実社会」をつなぐ「新たな学び」づくりに挑戦をします。これにより、総合的な学習の時間で実践する「探究シブヤ未来科」への円滑な接続を図り、社会課題の解決を目指す「Authentic Learning」を目指します。

※ オーセンティック・ラーニング（Authentic Learning）とは、実社会や現実に即した「本物」の課題を解決する過程で、知識やスキルを応用しながら学ぶ教育アプローチ。単なる知識の暗記ではなく、問題解決能力や批判的思考力、協働性を育み、「深い学び」を実現します。

イ 特別の教科 道徳

(ア)「考え議論する」道徳授業の展開

教材を通して自分の生き方と向き合い、多様な視点から話し合い、他者との対話を通じてより良い生き方を自ら考え深めていく「考え議論する」道徳授業を展開します。教育活動全体の道徳教育の要としての道徳の授業の充実を図り「自立した一人の人間として、人生を他者とともにより良く生きる人格を形成すること」（道徳的な判断力、心情、実践、意欲と態度等の育成）を目指します。

(イ) 家庭や地域との連携

「道徳授業地区公開講座」や学校公式 Web サイトからの情報発信等により地域や家庭で大人も真剣に考える契機を創出します。ともに議論する内容を設定した「意見交換会」等を意図的に実施するとともに、あらゆる機会でも校外に向けても学びを広げていきます。

(ウ) 先端技術と融合した道徳授業

タブレット端末や先端技術（テクノロジー）と道徳授業を融合させることで、これからの時代に必要な情報活用能力（特に情報モラル）やデジタルシチズンシップの育成にあたります。

ウ 総合的な学習の時間（探究シブヤ未来科）

(ア) 社会課題の解決を目指す「Authentic Learning」の構築

習得・活用・探究という学びのプロセスの中で、各教科等で学んだ見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」を展開していきます。特に「探究的な学習」を一層重視することで、各教科等で育成をしている資質・能力を相互に関連付けて学びを深め、教科横断的に学んだことが実社会・実生活において活用できるものであると実感させる「Authentic Learning」を構築します。

さらに、学習の基盤となる言語能力・情報活用能力（情報モラルを含む）・問題発見解決能力の育成にあたります。

(イ) Project Based Learning（課題解決学習）の展開

地域のリソース（教育資源）を最大限引き出し、地域団体や民間企業との協創によるPBL（課題解決学習）を展開していきます。これにより実社会での課題解決の手法を学ぶとともに、授業で「学んでいること」がどのように「実社会」とつながっているのかという本質を体感させる「協働探究」（テーマ探究）を展開します。

(ウ) 学習の個性化「個人探究」（My 探究）の展開

各教科等において培ってきた「協調型問題解決能力（Collaborative Problem Solving）」等のスキル（資質・能力）を発揮し、「学習の個性化」により「尖がった人材」を育成するため、生徒自身が興味・関心のあるテーマ（身近な課題・疑問、ニュース、好きなことなど）を見つけ、その中から主体的に問いを立て、情報を集め、分析・考察し、その成果を活用して実際の課題解決に取り組む学習活動「個人探究」（My 探究）を展開します。

タブレット端末や先端技術（テクノロジー）と探究学習の融合により、課題解決のツールとして効果的な活用ができるスキル（資質・能力）を育成します。

エ 特別活動

(ア) 「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つを視点から学級活動、生徒会活動、学校行事等の様々な集団活動を意図的に展開していきます。

(イ) 「人間関係形成」に必要な資質・能力を育成するために、集団活動での個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で、年齢や性別・考え方や関心・意見の違い等を理解した上で認め合い、互いのよさを生かすような関係をつくることのできるよう活動を展開します。

(ウ) 「社会参画」に必要な資質・能力を育成するために、自発的・自治的な活動の充実を図ります。個人が集団へ関与する中で、主体的な地域社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことができるよう活動を展開します。

(エ) 「自己実現」に必要な資質・能力を育成するために、自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において「現在の自分」や「将来の自分」に関わる課題を考察することができるよう活動を展開します。

(2) 特別支援教育

学校生活の中で人間関係等の集団生活に不安のある生徒への支援を充実させていきます。特別支援教育校内推進委員会を設置、特別支援教育コーディネーターを複数(4名)配置した組織での対応にあたります。個々の状況の把握を組織的・重層的に支援を行い、支援が必要な生徒には、保護者との連携により「個別指導計画」や「学校生活支援シート」を作成、適切な支援にあたります。支援を要する生徒のニーズに応じて、特別支援教室や学習支援員等による個別指導等を行います。

校内での生徒の状況把握や、どのような支援を必要としているのか、保護者・地域と密に連携を取り、生徒の状況に応じて適切な関係諸機関との連携と多様な学びの機会を生徒に提供していきます。

インクルーシブ教育システムの構築を図るため、全教員の特別支援教育に関する基礎的な知識・技能の向上を図るとともに、学校の運営上変更が必要な事案に対しては、スピード感をもって対応します。また、必要に応じて、外部の人的資源の活用により、専門性を高めていきます。

特別支援学校等の副籍生徒のニーズに応じて、直接または間接的な交流活動等を積極的に行っていきます。

(3) 創意ある教育活動

ア 生徒主体の「学校づくり・地域活動参画」

生徒会活動・学級活動・学校行事を重視して、実体験をベースとした主体的な教育活動を展開していきます。

特に、令和8年度は、生徒会活動による学校生活づくり・地域活動への参画を展開していきます。学校生活や地域社会での課題を生徒会主体による「School Council's Feedback」により把握、生徒と教職員の対話はもちろん、保護者・地域までにも対話を広げ、学校や地域の課題解決にあたります。

イ スポーツを通じた教育活動

渋谷区スポーツセンター敷地内の仮設校舎(西原キャンパス)への移転を契機に「スポーツを通じた教育活動」を展開します。単に競技スポーツを推進するだけではなく、だれもがスポーツを「知る・見る・する・支える」いった側面でスポーツに親しむ教育活動を展開します。特に、スポーツをベースとしたテクノロジーの活用・アントレプレナーシップ・デザイン思考・グローバルコミュニケーション等の育成を展開します。

ウ 地域の拠点としての学校づくり

学校施設は地域社会の「核」となると捉え、徹底的に学校を開いた教育活動を展開していきます。特に、渋谷区スポーツセンター敷地内の仮設校舎(西原キャンパス)への移転を契機に、区民施設との協調を目指します。スポーツ施設だけではなく、学校施設の機能を地域とともに共有することで、地域の拠点としての学校づくりを進めていきます。具体的には、「土づくりプロジェクト(つながる菜園:代々木コンポスト)」や「渋谷防災キャラバン」等の地域プロジェクトについて、学校施設で展開することで地域・保護者・生徒・教職員の行動連携を図ります。さらに、地域を共有する近隣小学校との連携についても情報連携だけではなく行動連携を進めていきます。

(4) 生活指導

人権尊重の精神を基盤に生活面に関する指導の充実を図ります。生徒の主体性を最大限引き出すとともに、他者との対話によって、様々な課題を試行錯誤しながら解決していく指導を展開します。

また、「信じ、待ち、許す」ことを基本方針として指導にあたります。教職員はもちろん、生徒・保護者・地域が相互を100%「信じる」こと、丁寧に対話して成果をじっくり「待つ」こと、失敗を「許し」成長につなげることを徹底することで生活指導面から安心・安全に挑戦できる教育環境を構築していきます。

さらに、誰一人取り残されることなく「充実した中学校生活」となるように、以下について指導の充実を目指します。

ア いじめ防止基本方針による指導の徹底

イ タブレット端末やスマートフォンの活用の実践指導

情報活用能力（情報モラルを含む）、デジタルシチズンシップ

ウ 安全教育（生活安全・交通安全・災害安全）の実践的指導

エ アレルギーや健康面等に不安のある生徒への教職員の支援

(5) 進路指導

すべての教育活動において「キャリア教育」の視点から活動内容を見直し、指導を展開します。第2学年での職場体験学習を起点に、未来社会につなぐ「学び」の創造を目指していきます。

将来、社会の一員として自分らしい生き方を実現できるように、社会性や職業観、勤労観、課題解決能力といった未来社会を「生きる力」の基盤となる能力や態度を育てます。

進学指導については、生徒自身が進路決定に関する情報を収集・分析し、主体的に進路決定をすることができるように3年間を通して指導するとともに、保護者との連携を図り、自己実現に向けた、より良い進路選択ができるよう指導を展開していきます。

3 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	18	19	21	13	1	20	19	18	19	15	18	18	199
2	18	19	21	13	1	20	19	18	19	15	18	18	199
3	18	19	21	13	1	20	19	18	19	15	18	15	196
備 考	ア 4・9月は、振替の無い土曜日授業を実施するため、それぞれ1日増となる。 イ 12月は、振替のある土曜授業を実施するため、増減がなくなる。 ウ 第1学年は、前期始業式がないため年間授業日数が1日減となる。 エ 第2学年は、入学式に出席しないため、年間授業日数が1日減となる。 オ 第3学年は、入学式に出席しない、また3月19日に卒業式となるため、年間授業日数は4日減となる。												

(2) 各教科等の年間授業時数配当表

教科等		学年	1	2	3
各 教 科	国語		126	126	95
	社会		95	95	126
	数学		126	95	126
	理科		95	126	126
	音楽		41	35	35
	美術		41	35	35
	保健体育		95	95	95
	技術・家庭		70	70	35
	外国語(英語)		126	126	126
	小計		815	803	799
特別の教科 道徳			35	35	35
総合的な学習の時間			130	142	146
特別活動(学級活動)			35	35	35
教科等を行う時数の総計			1015	1015	1015

備	考
ア	<p>Ⅰ 単位時間 授業のⅠ単位時間は50分とする。</p>
イ	<p>総合的な学習の時間（探究シブヤ未来科）</p> <p>（ア）「協働探究」（テーマ探究） 各学年50時間 Project Based Learning（課題解決学習） 各学年で地域団体や民間企業との協創による学習 カリキュラム・マネジメントにより、期間限定で実施</p> <p>（イ）「個人探究」（My探究） 各学年60時間 学年・学級を解体してテーマごとにチーム編成（ゼミ方式） 12月に発表会を実施する</p> <p>（ウ）その他 各学年の裁量での協働探究 1学年20時間 2学年32時間 3学年36時間</p>
ウ	<p>特別活動</p> <p>（ア）生徒総会 生徒会 生徒会役員・生徒評議会 担当 年2回（前期 5月中旬を予定 後期 10月中旬を予定）</p> <p>（イ）生徒会役員選挙 選挙管理委員会 担当 年1回（前期 9月中旬を予定）</p> <p>（ウ）全校集会・生徒集会 月1回</p> <p>（エ）各種委員会・生徒評議会 月1回</p>
エ	<p>その他</p> <p>月1回、TLD（Teacher's learning day）を実施する。 第2学年の職場体験学習実施については、総合的な学習の時間として取り扱う。カリキュラム・マネジメントにより授業の振替を年間通して計画的に実施する。</p>

4 学校行事

月 曜 日	4		5		6		7		8		9	
	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事
1	水		金		月	安全指導③ 体カテスト始	水		土		火	
2	木		土	開校記念日	火		木		日		水	
3	金		日	憲法記念日	水		金	教育指導課訪問	月		木	
4	土		月	みどりの日	木		土		火		金	
5	日	春季休業日終	火	こどもの日	金	振替休業日	日		水		土	
6	月	前期始業式	水	振替休日	土		月	安全指導④	木		日	
7	火	入学式	木	安全指導② 避難訓練②	日		火		金		月	
8	水	定期健康診断始	金	生徒総会	月	第1回定期考査始	水		土		火	
9	木		土		火	第1回定期考査終	木		日		水	第2回定期考査始
10	金		日		水		金		月		木	
11	土		月		木	避難訓練③	土		火	山の日	金	第2回定期考査終
12	日		火		金		日		水	学校閉庁日	土	
13	月	安全指導①	水		土		月	避難訓練④	木	学校閉庁日	日	
14	火	避難訓練①	木		日		火		金	学校閉庁日	月	
15	水		金		月	水泳指導始	水		土		火	
16	木		土		火		木		日		水	渋中研(指導案検討)
17	金		日	修学旅行(3)始	水	小中連携の日	金		月		木	生徒会役員選挙
18	土	土曜授業①	月		木		土		火		金	水泳指導終 避難訓練⑤
19	日		火	修学旅行(3)終	金		日		水		土	
20	月		水	振替休業日(3)	土		月	海の日	木		日	
21	火		木		日		火		金		月	敬老の日
22	水		金		月		水		土		火	国民の休日
23	木	全国学力学習状況調査(3)	土		火		木		日		水	秋分の日
24	金	セーフティ教室 薬物乱用防止教室	日		水	職場体験(2)始	金		月		木	
25	土		月		木		土		火		金	中学校陸上競技大会
26	日		火		金	職場体験(2)終	日		水		土	土曜授業② 渋谷防災キャラバン 学校説明会
27	月		水		土		月		木		日	
28	火		木		日		火		金		月	
29	水	昭和の日	金		月		水		土	夏季休業日終	火	
30	木	渋中研総会	土	体育祭	火	定期健康診断終 体カテスト終	木		日		水	
31			日				金		月	安全指導⑤		

月 曜 日	10		11		12		1		2		3	
	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事	曜	行 事
1	木	平和・国際都市渋谷の日 都民の日	日	東京都教育の日	火		金	元日	月	安全指導⑩	月	
2	金		月	振替休業日	水		土		火		火	
3	土		火	文化の日	木		日		水		水	
4	日		水	安全指導⑦	金	校外学習(1)	月		木		木	普通救命講習(1)
5	月	大相撲観戦(全)	木		土		火		金	避難訓練⑩	金	校外学習(3)
6	火	避難訓練⑥	金		日		水		土		土	
7	水	前期終業式 安全指導⑥	土		月		木	冬季休業日終	日		日	
8	木	秋季休業日始 学校閉庁日 連合音楽会	日		火		金	安全指導⑨	月		月	安全指導⑪
9	金	秋季休業日終 学校閉庁日	月		水		土		火		火	避難訓練⑪
10	土		火		木		日		水		水	探究フェス (午後)
11	日		水	道徳授業地区公開講座	金		月	成人の日	木	建国記念の日	木	
12	月	スポーツの日	木		土		火		金	新入生保護者相談会	金	
13	火	後期始業式	金		日		水	渋中研(研究発表会)	土		土	
14	水	渋中研(一斉研究授業)	土		月		木		日		日	
15	木		日		火		金		月		月	
16	金	校外学習(2)	月	第3回定期考査始	水		土		火		火	
17	土		火		木	音楽鑑賞教室(2)	日		水		水	
18	日		水	第3回定期考査終	金	避難訓練⑧	月		木		木	
19	月		木	避難訓練⑦	土	土曜授業③ 探究発表会	火	避難訓練⑨	金		金	卒業式
20	火		金		日		水		土		土	
21	水		土		月		木		日		日	春分の日
22	木		日		火		金		月	第4回定期考査始	月	振替休日
23	金		月	勤労感謝の日	水		土		火	天皇誕生日	火	
24	土		火		木		日	移動教室(2)始	水		水	
25	日		水		金	振替休業日	月		木	第4回定期考査終	木	修了式
26	月		木		土	冬季休業日始	火	移動教室(2)終	金		金	春季休業日始
27	火		金	認知症サポーター養成講座(1)	日		水	振替休業日(2)	土		土	
28	水		土		月		木		日		日	
29	木		日		火		金				月	
30	金		月	安全指導⑧	水		土				火	
31	土	もみの木祭			木		日				水	